

## 教育基本法「改正」案の廃案を求める歴史研究者・教育者のアピール

日本国憲法と教育基本法は、戦後世界と日本の基盤となった民主主義と平和の基本理念を示すものであり、成立後 60 年近くを経過した現在でも、その輝きを失うどころか、むしろ世界からいっそう注目されるにいたっている。かつて「教育勅語」に基づく皇民教育によって天皇に忠誠をつくす「臣民」の育成が徹底され、侵略戦争の遂行に多くの国民がすすんで協力するにいたったことは、教育のもつ重要性和危険性を広く認識させずにはおかなかった。その反省の上に立って 1947 年に制定された教育基本法は、民主主義と平和を基軸とした教育の理念を語るとともに、国家による教育統制を極力排除することを主眼としている。これは教育の中身に国家が介入することが侵略戦争の道へ踏み込む結果をもたらしたという反省をふまえたものであり、今日にいたるまで、国家中心ではなく子どもの成長発達を中心にすえた戦後教育のよりどころとなってきた。

ところがこのような教育基本法の理念を根本的に改め、国家が具体的な教育内容に踏み込んで、教育全般の統制を進めようという「教育基本法改正案」が国会に提出され、秋の臨時国会での成立が企てられている。

「改正案」には以下に示すように多くの問題があり、歴史の研究と教育にたずさわる者として、これをぜひとも廃案とするよう訴えるものである。

第 1 に、改正法案の内容以前の問題として、「改正」の必要性、必然性について明確な説明がなされていないことである。政府・文部科学省は、モラルの低下、いじめ、学級崩壊などの現象を「改正」理由としてあげていたが、結局これらが現行の教育基本法に起因するものということではできなくなり、政府は国会における答弁で「改正」理由を説明できなかったのである。民主主義と平和を基調とする戦後教育の根幹を支えてきた教育基本法を、明確な理由もなしに軽々しく「改正」することは到底許されない。

第 2 に、現行の教育基本法で、教育の方針として「学問の自由を尊重し、実際生活に即し、自発的精神を養い、自他の敬愛と協力によって、文化の創造と発展に貢献するように努めなければならない」と記した第 2 条をすべて削除し、「改正案」は新 2 条に「教育の目標」を新たに規定して、具体的な徳目を 5 つの項目に分けて列記している。最後の 5 項には「伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと」という一文が配されている。これは「我が国や郷土を愛する」という人々の心の内面にふみこんで特定の「態度」表明を強制するものであり、他国を尊重するという後段があるからといって看過できるものではない。また愛国心とともに郷土愛を併置したことも重大な問題をはらむ。かつての「教育勅語」の時代においても郷土愛の涵養が叫ばれたが、これは「愛郷心は愛国心の基盤をなす」という発想によって行われたものであった。また「伝統と文化を尊重し」ともいうが、「伝統」や「文化」の内実やそれと国家との関係は複雑であり、特定の伝統観・文化観を押しつける危険性をはらんでいる。

さらに特定の「態度」の育成を教育全般の目標として法定し、それを教育関係者に義務づけることは、事実を学び、事実にもとづいて考え、真理を探究するという戦後の歴史教育の原点を根底からくつがえすことにならざるを得ない。特定の態度育成に役立つ事実だけが選ばとられ、教えられ、態度育成の結果が評価されるような教育は、天皇への忠誠心を養うことを目標に組み立てられた戦前戦中の「国史」教育に通ずるものである。

このような「徳目」としての教育目標が、小中高校の教育にとどまらず、家庭教育・幼児教育・大学・私立学校・社会教育などにも共通するものとして設定され、親や教員、地域住民、警察も含むといわれるその他の教育関係者すべてがその目標達成のために努力することを義務づけられるようになることも、重大な問題をはらんでいる。教育機関のみならず社会全体に国が定めた徳目を無批判に受容する体制をつくりあげることになりかねないからである。

第3に、現行法第5条の男女共学についての規定が全面削除されることになった。法の文面上は直接には男女共学についての規定であるが、戦後教育のなかでは、その精神を生かし発展させ、男女平等の教育を推進する根拠となってきた。最近、男女平等の教育・社会をめざすうごきに対して激しい逆流現象がおこっている事実を照らせば、第5条の廃止が男女平等教育を後退させる契機となることが危惧される。

第4に、義務教育を9年とする規定が削除され、さらに「改正案」で法的根拠を与えられる政府策定の教育振興基本計画によって、昨今伝えられるような競争的な全国一斉学力テストが実施されるならば、いっそう効率的、差別的な教育が推進され、教育の平等が損なわれることも危惧される。

第5に、教育行政のありかたについても「改正案」には重大な問題が含まれている。

現行法では教員にかかわる第6条で「法律に定める学校の教員は、全体の奉仕者であって、自己の使命を自覚し、その職責の遂行に努めなければならない」とあるが、教員について定めた「改正案」第9条では、このうち「全体の奉仕者」という文言を削除した。これとあわせて現行法第10条の「教育は、不当な支配に服することなく、国民全体に対し直接に責任を負って行われるべきものである」という条文からも「国民全体に対し直接に責任を負って」という部分が削られた。国家および地方行政による教育統制、教育内容への介入を極力排除し、教員は「全体の奉仕者」であって、教育は「国民全体に対して責任を負って」行われるべきであるとした現行法の理念は、「改正案」では全く消失し、教育は「この法律及び他の法律の定めるところにより行われるべきもの」とされた。いいかえれば、教育とその担当者たる教員は、子ども・保護者・地域住民に責任を負うのではなく、政府に責任を負い、法律や通達などの形で示される政府の命ずるところに従って教育を行わなければならないのである。政府による教育支配を完全に合法化する「改正案」といわなければならない。「全体の奉仕者」として「国民全体に責任をもつ」かたちで事実を語り真理を探究するというごくあたりまえのことが、不可能になる。最近の異常なまでの「日の丸・君が代」強制の実態に照らせば、それを杞憂ということはできない。

教育基本法を一つの指針として、長年にわたり歴史研究と教育に携わってきたわれわれは、これまでの努力を真っ向から否定するような「教育基本法改正案」は廃案にすべきだと考える。

2006年10月20日

呼びかけ人	荒井信一	猪飼隆明	石山久男	伊藤康子	宇佐見ミサ子
	木畑洋一	木村茂光	鈴木良	中塚明	永原和子
	西川正雄	西村汎子	浜林正夫	広川禎秀	服藤早苗
	藤井讓治	峰岸純夫	宮地正人	山田邦明	米田佐代子

賛同者

会田進	相原佳之	青木哲夫	青柳周一	赤江雄一	赤澤史朗	秋葉淳
秋山喜作	秋山千恵	秋山哲雄	秋山晶則	秋山美代子	明田川融	浅井良夫
朝尾幸次郎	浅田進史	足立芳宏	穴山朝子	穴山健	穴山亨	阿部拓二
甘粕健	網野裕	新井建一	新宮学	有澤秀重	有光友學	飯尾秀幸
飯野保男	井口典子	池田忍	池田敏宏	井ヶ田良治	池橋達雄	池谷信之
池谷初恵	石井寛治	石井建夫	石居人也	石井芙桑雄	石躍胤央	石川清
石川照子	石川浩	石樽亨造	石崎昇子	石田勇治	石出法太	伊集院立
和泉清司	泉谷康夫	磯崎三郎	磯永和貴	磯部国良	伊藤和雅	伊藤恵子
伊藤定良	伊藤武夫	伊東富昭	伊藤正子	伊藤正彦	伊藤満智子	伊藤美恵子
稲葉継陽	犬丸義一	井上勝生	井上茂子	井上智勝	井上寛司	今井昭彦
今井駿	今井晋哉	今井清一	今村克彦	井本三夫	入沢昌基	入間田宣夫
岩井淳	岩井忠熊	磐下徹	岩田浩太郎	岩根承成	岩村立郎	上杉和彦
上杉佐代子	上杉忍	上野平真希	植野真澄	魚次龍雄	鵜飼幸雄	内田眞
内田真弘	梅田欽治	梅田千尋	梅村喬	浦島明子	浦谷孝次郎	江川ひかり
江草宣友	榎原雅治	江村栄一	槐一男	遠藤田鶴子	遠藤基郎	遠藤譲
遠藤芳信	塩谷朗	及川英二郎	大石直正	大岡聡	大門正克	大川正彦
大串潤児	大久保由理	大崎好子	大城尊	大隅和雄	大竹幸恵	大竹憲昭
大谷猛夫	太田幸男	大塚和章	大塚活美	大塚初重	大庭邦彦	大野一夫
大軒史子	大橋秀子	大橋美枝子	大橋幸泰	大森映子	大森とく子	大森康晴
大山圭湖	岡田敬司	岡田泰介	岡部牧夫	岡村正純	岡本明	岡本一也
岡本公純	小川周作	小川隆司	小川徳水	小川盛政	小川由美子	小川原宏幸
奥野雅之	奥山忍	小栗康治	尾崎朝子	尾崎芳治	小澤康平	小沢弘明
小関素明	小田内隆	乙坂智子	小野一之	小野恭一	小野崎克彦	小野沢あかね
小野正雄	小野百合子	小浜健児	小和田哲男	海津一朗	加来良行	笠原十九司
春日豊	糟谷憲一	粕谷龍雄	片倉比佐子	片倉穰	香月史江	門晶子
加藤幸三郎	加藤千香子	加藤政洋	金井信夫	金子啓一郎	金子修一	金子文夫
狩野久	鹿野政直	樺井義孝	上川和子	上川通夫	神谷智	川合清隆
川合奈美	川合康	川岡勉	川上元	川口智江	川手圭一	河辺隆宏
菅野成寛	菅野文夫	菊池一隆	菊地宏義	木立雅朗	北爪真佐夫	木谷勤
北村暁夫	北村秀夫	北村安裕	木下尚子	木下光弘	木畑和子	君島和彦
木村隆俊	木村直樹	木村英亮	行田勇	金原左門	草野十四朗	楠瀬勝
工藤愛子	工藤薫	工藤敬一	工藤則光	国岡健	久保田和彦	熊谷賢
神代健彦	熊野正也	倉持和雄	栗生澤猛夫	黒板伸夫	黒岩範子	黒岩宏次
黒川和政	小池岳史	河内春人	甲元眞之	小澤浩	小嶋茂稔	小杉則義

小谷汪之	小玉道明	古寺啓子	後藤雄介	小林健治	小林准士	小林昌二
小林深志	小林瑞恵	小林幸雄	小林幸夫	小牧薫	小松寿治	小松裕
小宮木代良	コラー スサンネ		近藤成一	近藤創	齊藤茂	齋藤毅
齊藤俊江	齊藤年美	齊藤弘子	坂上康博	坂口勉	坂田聡	坂本昇
坂本春夫	坂本悠一	佐久間耕治	桜井千恵美	佐々木洋子	佐々充昭	佐藤いづみ
佐藤一夫	佐藤興治	佐藤治郎	佐藤孝之	佐藤伸雄	佐藤則次	佐藤政憲
佐藤円	佐藤義弘	佐藤隆一	佐伯哲朗	澤崎信一	澤博勝	三田武繁
篠永宣孝	芝健介	芝野由和	芝原拓自	島川雅史	島田克彦	島田次郎
清水透	清水亮	下鶴隆	下村由一	下山潔	下山久美子	白井洋子
新川健三郎	新藤通弘	神野清一	末中哲夫	菅野則子	菅原憲二	菅富士夫
菅原征子	杉岳志	杉田真衣	杉山恵子	杉山弘	杉山文彦	杉山友規
杉山紫	鈴江英一	鈴木茂	鈴木隆史	鈴木均	鈴木美和子	須藤和昭
須藤茂樹	瀬川裕市郎	關尾史郎	関口曉子	関口久志	関根正男	瀬戸致誠
背戸幹夫	瀬畑源	膳智之	相馬保夫	曾根原理	曾根勇二	平良宗潤
高澤裕一	高塚純一	高野和人	高埜利彦	高野信治	高橋民子	高橋秀寿
高橋秀実	高橋昌明	高橋美智子	高松寛	高松百香	滝沢秀樹	竹内三輪
竹下八千子	武廣亮平	竹間芳明	竹山博英	田嶋信雄	田尻利	田尻祐一郎
多田狷介	多田麻希子	立石博高	田中ひとみ	田中大喜	田中正敬	棚橋正明
棚橋昌代	谷口康浩	谷本晃久	谷本育紀	田沼睦	玉井力	田港朝昭
田村栄子	田村孝	千地健太	塚田勲	津金武信	塚本学	辻野博之
津田芳郎	土田映子	土本顕	土本芳子	堤啓次郎	椿建也	鶴巻昌洋
勅使河原彰	東海林次男	土岐島雄	戸沢充則	戸舘哲彦	戸田三三冬	戸張真
富井修	富田彬道	富田理恵	富永智津子	豊見山和行	豊沢肇	鳥山孟郎
長井伸仁	永井好子	長尾史子	中川学	中川美保子	中小路純	中澤薫
長島淳子	中島栄一	長島光二	中島利治	永島朋子	中島信行	中島三千男
中田興吉	中塚次郎	長塚真琴	長縄幸弘	長沼宗昭	長野ひろ子	永野佑子
永原陽子	永岑三千輝	中村江里	中村哲	中村哲也	中村友一	中村文
中村平治	中村政則	仲本真理子	仲森明正	中山清	長山雅一	奈倉哲三
滑川皓一	滑川貴之	榎原孝俊	難波達興	西浦弘望	西尾和美	西尾泰広
西川純子	錦織照	西木秀治	西里喜行	西田かほる	西野悠紀子	西秀成
西村嘉高	二谷貞夫	新田康二	二村一夫	二村美朝子	根津寿夫	野口裕行
野田泰三	野村育世	野村君代	野村由紀子	萩原啓一	橋村修	橋本哲哉
橋本紀子	橋本雄	長谷川伸三	長谷川貴彦	畑中佳子	波多野慎二	八郷芙美
服部一隆	花立幸恵	花立三郎	浜田久美子	浜忠雄	林彰	林幸司
林博史	林文子	林淳	隼田嘉彦	原口清	原田鏡子	原葉子
半沢忠彦	阪東宏	日暮美奈子	飛高佐和子	平賀明彦	廣川和花	広瀬隆久

広瀬玲子	弘田五郎	深澤安博	福島大我	福田浩治	福永美和子	藤木直実
藤木久志	藤田進	渕真澄	古川高子	古川宣子	古川佳志香	古谷博
朴澤直秀	北條勝貴	北條祐勝	堀内和宏	堀サチ子	堀敏一	本田衡規
本多隆成	本田雅和	前川亨	前川玲子	前田一郎	前田金五郎	前田徳弘
前間良爾	牧田明三	増田俊信	増谷英樹	間瀬収芳	町田哲	松井道昭
松浦克	松尾尊允	松尾良隆	松木栄三	松崎稔	松澤徹	松下憲一
松田圭介	松永友有	松沼美穂	松原明日香	松原宏之	松村幸一	松村達
松本尚志	松本通孝	間宮陽介	丸浜昭	丸山信二	丸山俊江	丸山雍成
丸山幸彦	三上映徹	三上徹也	三上喜孝	三木聰	三木陽平	三澤純
三島宗良	水谷明子	水谷由美子	水溜真由美	水永正継	水永玲子	溝部敦子
三竹真智子	三田智子	満川尚美	光成準治	皆川雅樹	皆川みずゑ	港道隆
南塚信吾	宮城公子	三宅明正	三宅立	土産田真喜男	三宅良子	宮嶋美子
宮田節子	宮地泉	宮地洋子	宮野裕	宮本英子	宮本徹	宮本豊樹
村形明子	村上史郎	村上貢	村川幸三郎	村松邦崇	茂木敏夫	本川幹男
本宮一男	森公章	森茂起	森下徹	森田喜久男	森文明	森安彦
守矢昌文	森脇孝広	矢崎彰	安井俊夫	安川寿之輔	安丸良夫	八田恵子
柳川英司	柳沢遊	柳原真史	矢野健一	山尾幸久	山岸健二	山岸拓郎
山上修	山口啓二	山口大輔	山口真樹人	山崎彰	山崎淳子	山崎鎮親
山崎有恒	山下聡一	山下有美	山田渉	山田敬男	山田真理	山根清志
山根徹也	山上正太郎	山口由等	山辺昌彦	山本英二	山本茂喜	山本唯人
山本直美	山本真鳥	山本義彦	由井正臣	湯川笑子	雪田隆子	雪田孝
湯山哲守	尹賢明	横田安司	横藤田稔泰	横山篤夫	横山伊徳	吉開将人
吉沢和夫	吉沢佳世子	吉澤文寿	吉田晶	吉田香枝子	吉田悟郎	吉田節子
吉田俊純	吉田伸之	吉田ふみお	吉田遼	吉野典子	吉野誠	吉原令子
吉水公一	吉村貴之	吉村知幸	米澤節子	米田俊彦	米山裕	李宣定
李孝徳	若尾祐司	和田章子	渡辺明	渡邊勲	渡辺浩一	渡辺信一郎
渡辺尚志	渡辺俊雄	渡辺嘉之	氏名未公開 81 名			

(賛同者 755 名、呼びかけ人を含め 775 名)